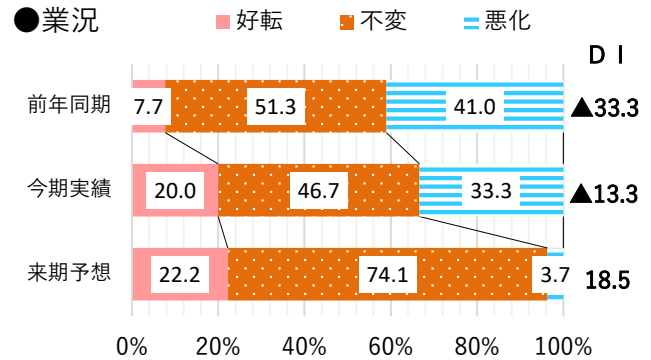


# 製造業

## 業況、売上、採算

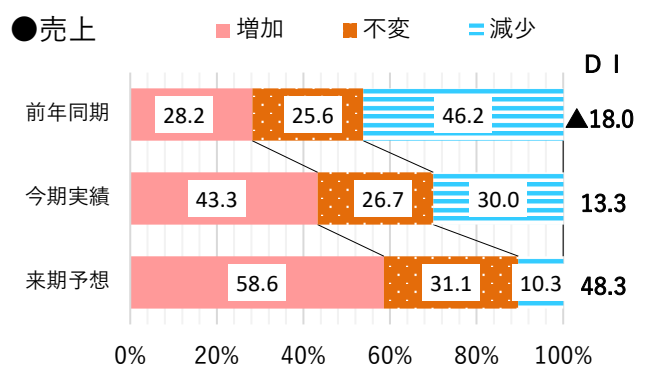
今期(2023.1~3)の業況判断DIは▲13.3で、前年同期(2022.1~3)と比べ20.0ポイント上昇しました。

来期(2023.4~6)は、業況が大幅に好転しプラスに転じると予想しています。



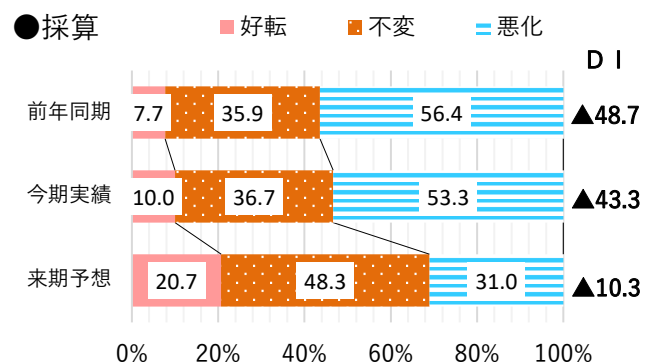
今期の売上DIは13.3で、前年同期と比べ31.3ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上の増加傾向が大幅に強まると予想しています。

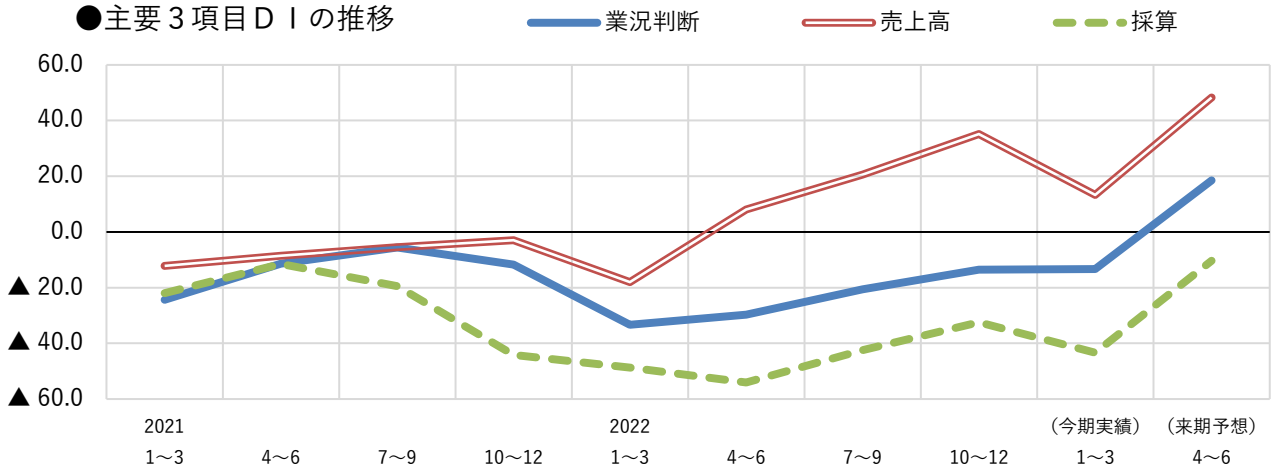


今期の採算DIは▲43.3で、前年同期と比べ5.4ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



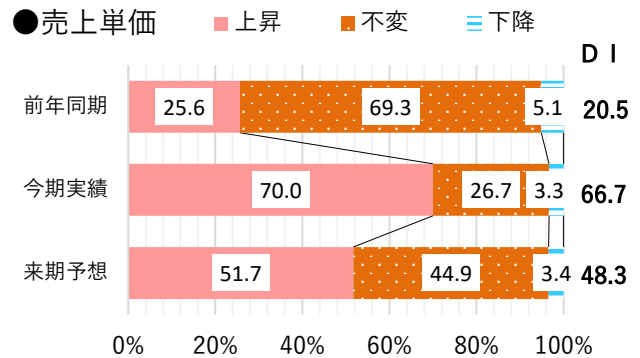
### ●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

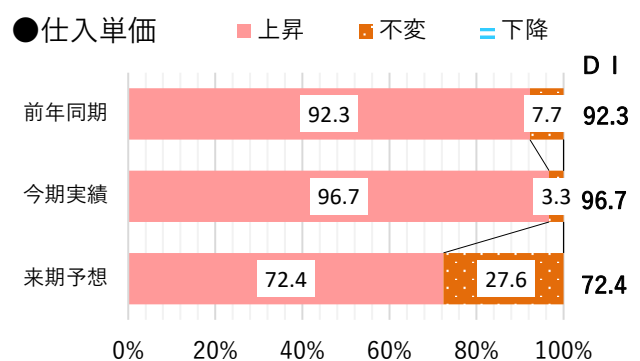
今期の売上単価DIは66.7で、前年同期と比べ46.2ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が続くと予想しています。



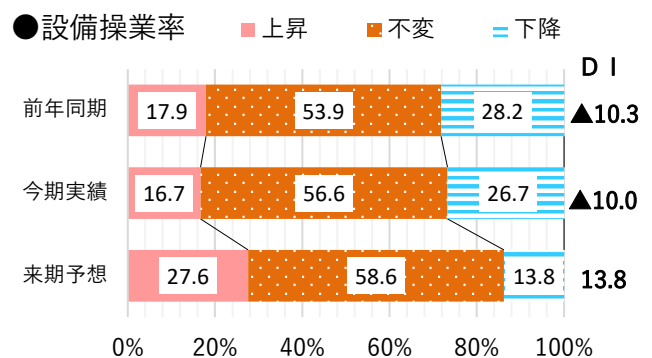
今期の仕入単価DIは96.7で、前年同期と比べ4.4ポイント上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



今期の設備操業率DIは▲10.0で、前年同期と比べ0.3ポイント上昇しました。

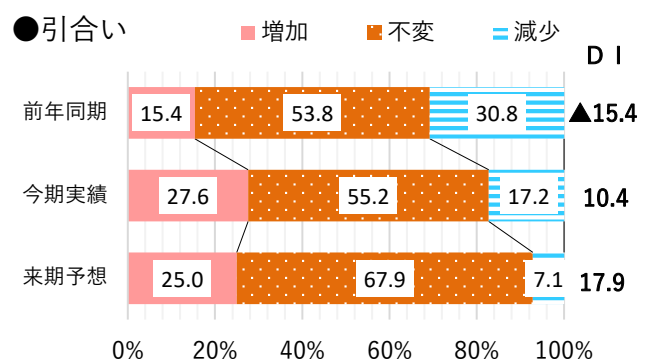
来期は、設備操業率がプラスに転じると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは10.4で、前年同期と比べ25.8ポイント上昇し、プラスに転じました。

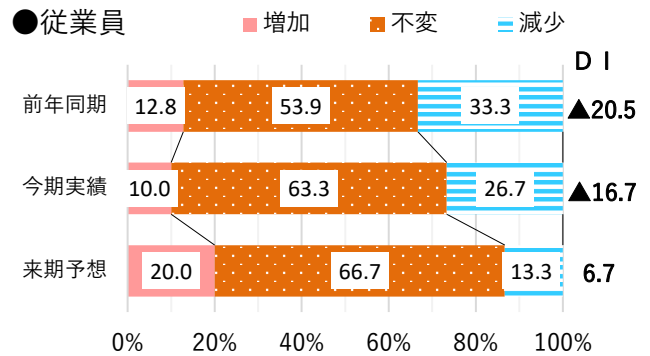
来期は、引合いの増加傾向が強まると予想しています。



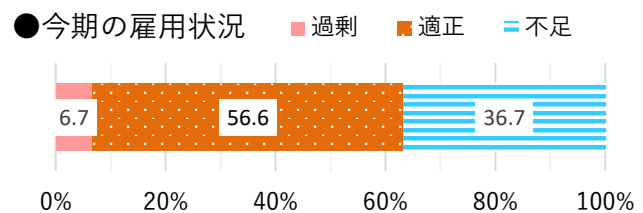
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲16.7で、前年同期と比べ3.8ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は6.7%、適正であると回答した企業の割合は56.6%、不足していると回答した企業の割合は36.7%でした。



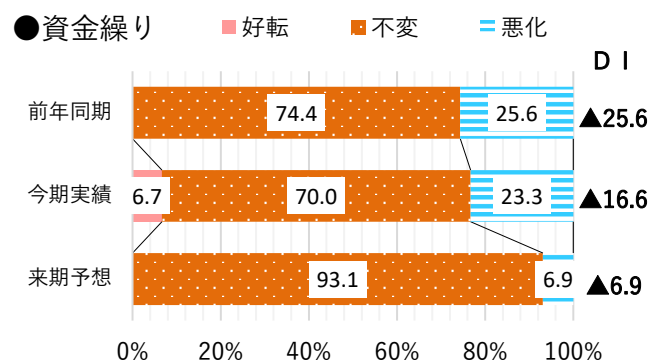
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、43.3%を占めた「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答でした。3割超の企業で従業員が不足している状況にあります。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	2
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	13
	不足	6
減少した	過剰	1
	適正	2
	不足	5

資金繰り、設備投資

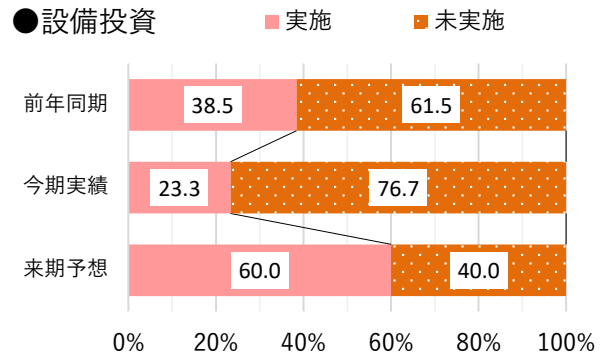
今期の資金繰りDIは▲16.6で、前年同期と比べ9.0ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



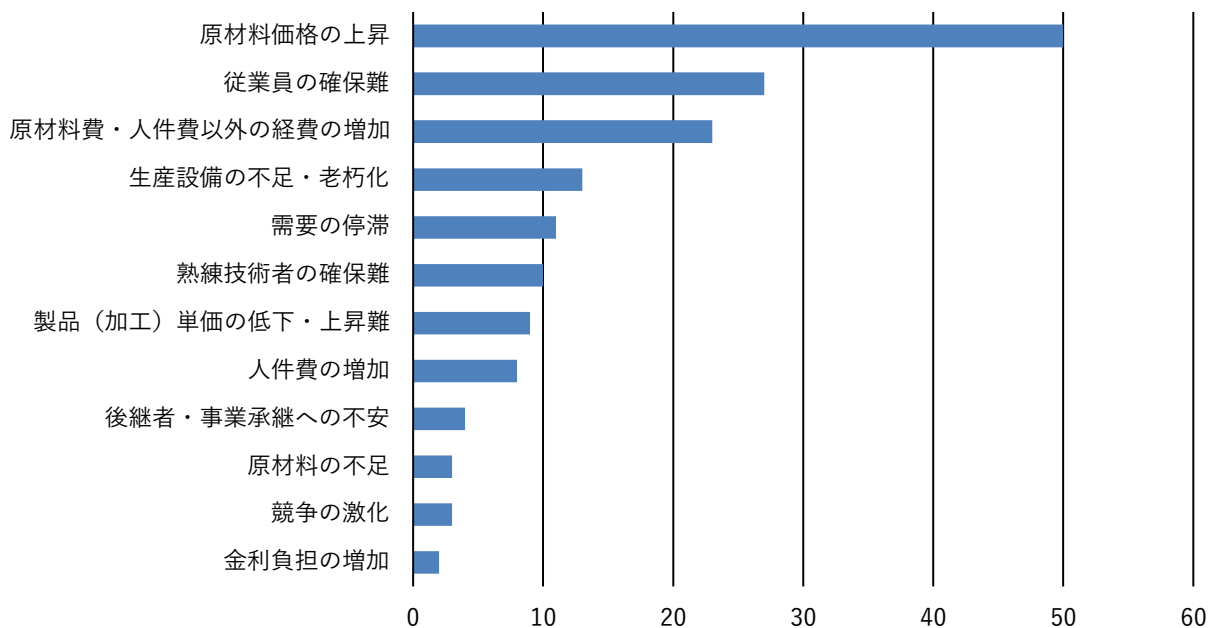
設備投資を実施した企業の割合は23.3%で、前年同期と比べ15.2%低下しました。投資内容は、1位が「生産設備」、「付帯施設」（同位）、2位が「車両運搬具」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は60.0%で、増加を予想しています。



### 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「原材料費・人件費以外の経費の増加」の順です。



### 企業の声

[今期の業況について]

- 旅行者やインバウンドの需要が増加しているが、人手不足のため対応できていない。（食料品）
- 原材料価格の高騰に伴い販売単価を引き上げざるを得ない状況だ。（食料品）
- 年明けから閑散期に入り、主力製品の数の子の売上が減少した。（食料品）
- インバウンドの増加に伴い、売上は回復基調にある。今後に期待する。（飲料）
- 予定通りの推移だが、工期変更により受注残が増えている。また、新規受注を控えている。（金属製品）
- 人材確保に苦労している。原材料価格とエネルギーコストが大幅に上昇した。（金属製品）
- 消耗品および電気料金等の値上げで困っている。（金属製品）
- 原材料価格は国産ナフサ価格にプラント補修費、ユーティリティーコストが上乘せされている。製品値上げの交渉は決着しつつあるが、昨年10月以降の電気料金、物流コスト、人件費の上昇分の交渉はほぼ決着しておらず、プラスチック製造、販売業者にとって負担が大きい。一昨年の7月から製品の値上げを継

続しているが、原材料価格の段階的な値上げに対し後追いで、原材料仕入単価の80%しか製品単価に反映できていない。人材は必要な分を確保できておらず、求人を継続しているが、給与を増やさなければ応募すらない状況だ。(プラスチック)

- 原材料価格上昇分の価格転嫁は終えているが、電力等ユーティリティ設備、賃金、運賃関連の価格転嫁はできておらず、4月以降の交渉となる。人員確保のため努力しているが、大手企業が大幅な賃上げを実施しているため、苦戦している。(プラスチック)

※ユーティリティ設備：工場を稼働させるために必要な電気や水、燃料などを供給する設備

- 一部商品は価格転嫁できたが、買い控え等により売上が減少した。原材料仕入価格は前年同期と比べ大幅に上昇している。(プラスチック)
- 仕入価格が上昇したが、売上額も増加しており、業況は好転した。(プラスチック)
- 売上は前年同期より増えたが、原材料価格や運賃高騰のあおりを受けて、利益は確保できていない。直近1年は20~30代の社員の退職が目立ち、後継者育成も課題の一つだ。(ゴム製品)
- 原材料価格の高騰、電気料金の負担増等マイナス要因に対して製品価格を引き上げている。(ゴム製品)
- 官庁の作業服、雨具等の加工物件を増量受注できたことで業況が好転した。(衣服)
- 土木関係の受注が減少した。仕入価格等のコストが増加した。(その他繊維製品)

## [来期の業況について]

- 原材料、資材、エネルギーコストの価格動向が不透明だ。閑散期のため、売上減少を見込む。(食料品)
- 売上は回復傾向にあると思われるが、原材料価格の上昇が大きく収益につながらない。(食料品)
- 引き続き原材料価格、資材価格が高騰する。輸出販売を増やしたい。(食料品)
- 電気代の増加分を価格転嫁できるかどうか重要だ。(食料品)
- 夏の観光需要期に向けての準備として、ゴールデンウィーク前に新商品を販売する。(飲料)
- 人材確保に苦労すると思われる。部品、材料不足による設備納入の遅延が課題だ。(飲料)
- 案件の工期が決まれば、生産の余力が分かるが、受注確保に向けて取り組めるかは不明だ。(金属製品)
- ベトナムから実習生が3名来るため、人材確保については安心している。(金属製品)
- 新商品の投入により、利益の大幅な増加を見込む。(金属製品)
- 為替135円/ドル以下になれば原材料価格は徐々に下落すると思われるが、原材料メーカーは電気料金の上昇分を販売価格に転嫁する方針を打ち出しており、当社の採算は期待しているほど好転しないと思われる。製品価格の引き上げ品目を追加するため、令和4年度比で115%の売上を見込む。人材確保は最重要課題で、2名は確保できているが最低人員に対し1名不足している。(プラスチック)
- 令和4年度は国際情勢の悪化により原材料、エネルギー価格が高騰したが、今後さらに国際情勢が悪化した場合、原材料の確保が困難になる。円安傾向は継続すると思われ、原材料価格は高値のまま推移する。電気料金の大幅な値上げにより採算は悪化する。(プラスチック)
- 人材確保が課題だ。(プラスチック)
- 商流の変更等あらゆる手段を実施する予定だ。(ゴム製品)
- 引き続き官庁からの受注が増加すると思われるが、製品加工の人手が不足している。技術者の求人を出しているが、全く応募がない。(衣服)